

# 林修先生と学ぶ「国消国産」講座

## 「地産地消」「国消国産」で 食卓からSDGsを始めよう。

JAグループサポーター  
林修



日本の食と農、SDGsの実現のために

### 「地産地消」「国消国産」

#### 私たちが地域でできること—「地産地消」

日本の食と農、SDGsのために、地域でできる取り組みが「地産地消」。その地域で生産された農畜産物を、その地域内で消費することです。例えばファーマーズマーケットを利用すれば、新鮮な地元の農畜産物に出会えます。また、食材の長距離輸送にともなうCO<sub>2</sub>の排出削減につながり、環境への負荷を減らせます。



#### 日本の食と農を未来につなぐ—「国消国産」

「地産地消」をはじめ、国産の農畜産物を消費することで、食の安心をすすめていくこと。それが「国消国産」。国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産するという考え方です。日本の食料自給率はカロリーベースで37%。6割を輸入に頼っており、このままでは、いざという時に心配です。生産者は今、消費者ニーズに応える農畜産物づくりに取り組んでいますが、日本の食を守るためには、国産農畜産物をもっと食べて、農業を応援していくことが重要です。



#### 持続可能な社会を—SDGsにつながる「国消国産」

このまま日本が国内生産を増やさず、食料を海外に依存し続けたらどうなるか。安易に途上国から輸入をすることで、その国の食料を奪う可能性はないのか。「地産地消」「国消国産」をすすめることは、持続可能な食料、農業、地域社会、環境など、SDGsの実現に貢献します。またJAグループは、子ども食堂への食材提供、農業従事者への各種支援、フードロス削減など、さまざまな活動を展開し、SDGsの達成を目指しています。

地域で

### 地産地消

- ・地域で生産 ・地域で消費
- ・「食」や「農業」の理解
- ・食料自給率の向上
- ・地場産への愛着心や安心感

例えば私たちにできること

- ・ファーマーズマーケットを利用する

日本で

### 国消国産

- ・食料安全保障
- ・食料自給率の向上
- ・生産基盤の維持・拡大
- ・次世代の担い手確保
- ・多面的機能の維持・増進
- ・環境負荷に配慮した農業
- ・ごはんを中心とした日本型の食生活

持続可能な地域農業地域社会づくり

例えば私たちにできること

- ・国産農畜産物を選んで食べる
- ・ごはん(お米)をもっと食べる

世界に

### SDGs 持続可能な開発目標

JAグループの取り組み

#### 「飢餓をゼロに」

- ・子ども食堂やフードバンクへの食材提供

#### 「働きがいも経済成長も」

- ・農業従事者への各種支援

#### 「つくる責任つかう責任」

- ・フードロス削減
- ・エシカル消費の推進
- ・農業生産における環境負荷の軽減 など

「国消国産」はSDGsの達成に貢献

### 10月16日は「国消国産の日」

10月16日は1945年に国連食糧農業機関(FAO)が発足した日です。国連はこの日を「世界食料デー」に定め、JAグループは「国消国産の日」として日本記念日協会に登録しました。JAグループは皆さんと共に「国消国産」をすすめ、持続可能な社会の実現を目指していきます。



耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ